

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
取組の概要と選定委員会からの主なコメント**

代 表 校 名 (連 携 校 名)	琉球大学 (佐賀大学) 計2大学
事 業 名	島医者・山医者・里医者育成プロジェクト (ER型救急・総合診療に対応できる医師育成)
事 業 責 任 者	副学長・理事・病院長 大屋祐輔
事 業 の 概 要	
<p>沖縄の地域医療では「離島診療所において1人または少人数で対応できる救急対応と総合診療の能力を身につけている医師」が求められる。これまで沖縄県では、県立中部病院のハワイ大学と連携した研修プログラムで、ER型救急で多くの症例を経験することにより、それらの能力を身につけさせてきた。本学では、ハワイ大学からシミュレーション教育の導入を行っていると同時に、中部病院にて4週間の本格的なクラークシップを実施している。今回、1) 地域医療教育における卒前卒後の一貫した連携を琉球大学と県立中部病院の間で発展させ、それらを佐賀大学へ波及させる、2) ハワイ大学のPBL教育を日本に適合させたプログラムを開発してきた佐賀大学とチュートリアルおよびVR教育コンテンツを共同開発する、3) 両県の地域医療機関における臨床実習をコーディネータの配置とICTの導入により充実化する、4) 地域医療に特化したプログラムを新規導入する。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○沖縄県の離島・へき地で一人、または少人数で活躍できる救急対応と総合診療に長けた人材を教育するという全体構想は地域特性を生かし、大学のみならず県立中部病院というこれまでその分野で十分な実績のある市中病院と共同で作るプログラムは期待も高く評価できる。</p> <p>○座学は可及的にオンデマンド講義にシフトし、地域医療に関する内容はハワイ型PBL、チュートリアル教育やシミュレーション教育を導入し長期滞在型クラークシップを必修とするプログラムは画期的で評価できる。</p> <p>○琉球大学と沖縄県立中部病院との連携は沖縄の地域医療・救急医療・総合診療の発展にとって極めて重要であり、このプログラムを実現させる意義は大きい。</p> <p>○詳細なカリキュラムの運営が記載されていてわかりやすい。</p> <p>●ハワイ大学を中心に各種の企画が提案されているが、なぜ沖縄県と佐賀県に存在する医師の地域偏在・診療科偏在、地域特有の課題等にそれが有効なのかの説明がない。</p> <p>●全体的に具体的ではない。</p> <p>●連携校やハワイ大学の役割・責任・体制などの記載が乏しい。</p> <p>●事業継続の前提が外部の補助金を今後獲得する予定となっており、継続性に疑問がある。</p> <p>●プログラムを履修した卒業生の進路調査やポートフォリオ、発表会があるとよい。</p>	